

# 有機農業の状況

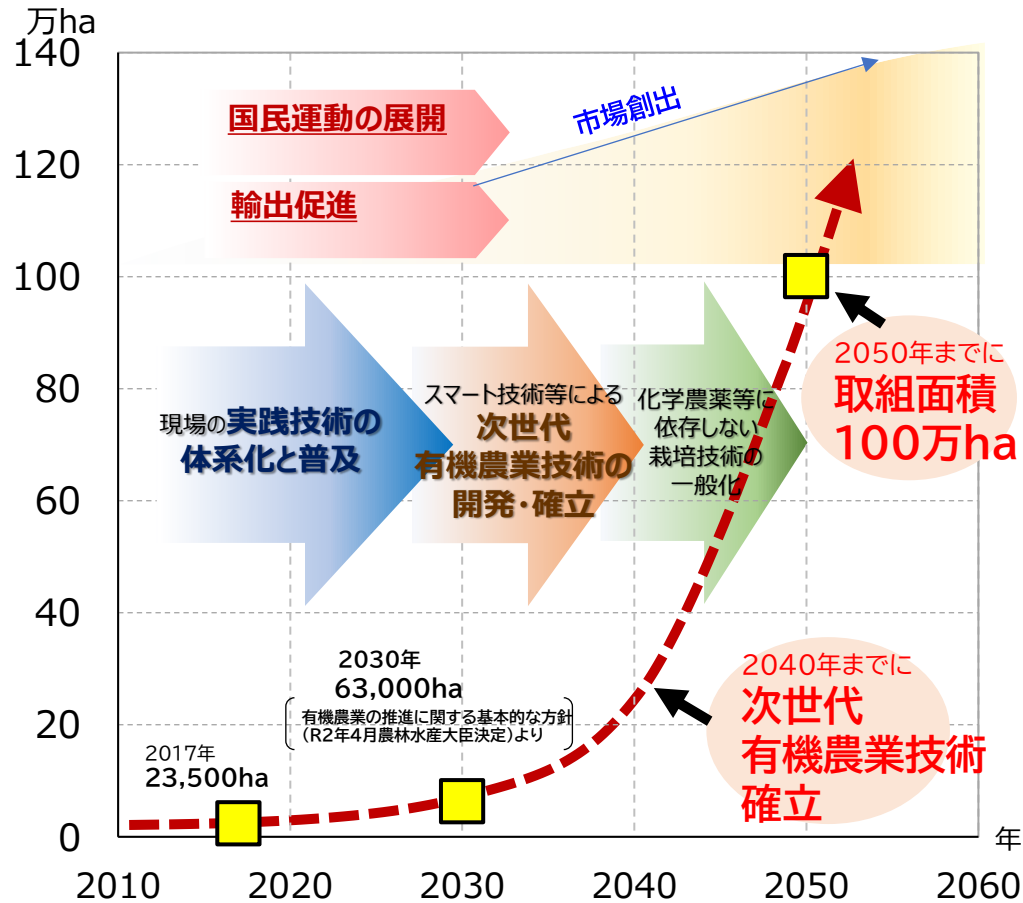
---



# 有機農業の取組の拡大

## 目標

- ・2050年までに、オーガニック市場を拡大しつつ、耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を**25% (100万ha) に拡大** (※国際的に行われている有機農業)
- ・2040年までに、主要な品目について農業者の多くが取り組むことができる**次世代有機農業技術を確立**



## 有機農業の推進に関する基本的な方針

### 推進及び普及の目標

- 10年後 (2030年) の国内外の有機食品の需要拡大を見通し、生産および消費の目標を設定。

#### 有機農業の取組面積

23.5千ha(2017)→**63千ha** (2030)

#### 有機農業者数

11.8千人(2009)→**36千人** (2030)

#### 有機食品の国産シェア

60%(2017)→**84%** (2030)

#### 有機食品を週1回以上利用する者の割合

17.5%(2017)→**25%** (2030)

### 推進に関する施策

- **人材育成**
- **産地づくり**
- **販売機会の多様化**
- **消費者の理解の増進**
- **技術開発・調査**

## 耕地面積に占める有機農業の割合

基準値 (基準年)	2022年実績値	2023年実績値	2030年目標	2050年目標
2.35万ha (2017年)	3.01万ha (0.7%)	<b>3.45万ha (0.8%)</b>	6.3万ha	100万ha (25%)

### 【2023年実績値】

みどりの食料システム戦略の策定や、みどり交付金による支援が始まったことにより、牧草地、普通畑、田等で増加し、2022年実績値より約4,400ha増加した。

### 【今後の対応】

地域ぐるみで有機農業の取組を実践するオーガニックビレッジの拡大や、環境保全型農業直接支払の見直し等による有機農業への移行に対する重点支援、都道府県域における有機農業技術の体系化、学校給食における有機農産物の導入、有機加工食品の国産原料の生産・取扱拡大等の取組を推進していく。

## 有機農業とは

「有機農業の推進に関する法律」による有機農業の定義は以下のとおりです。

- ・ 化学的に合成された肥料及び農薬を使用しない
- ・ 遺伝子組換え技術を利用しない
- ・ 農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減する  
農業生産の方法を用いて行われる農業

## 国際的な有機農業の定義

国際的な委員会（コーデック委員会）が作成した「ガイドライン」において規定した「生産の原則」では、以下のとおりです。

**有機農業は、生物の多様性、生物的循環及び土壌の生物活性等、農業生態系の健全性を促進し強化する全体的な生産管理システムである。**

## 有機農産物とは

- ・ 周辺から使用禁止資材が飛来し又は流入しないように必要な措置を講じている
  - ・ は種又は植付け前2年以上化学肥料や化学合成農薬を原則使用しない
  - ・ 組換えDNA技術の利用や収穫後の農産物への放射線照射を行わない
- など、有機JAS法に位置付けられた「有機農産物の日本農林規格」の基準に従って生産された農産物のことです。

## 有機食品の認証制度（有機JAS認証）について

有機JAS法に基づき、「有機JAS」に適合した生産が行われていることを登録認証機関が検査し、その結果、認証された事業者のみが有機JASマークを貼ることができます。



# 有機農業の位置づけ

## 有機農業

(コーデックス)

- ・ 使用禁止資材の不使用
- ・ 植え付け前等2年以上の化学農薬等不使用 等



## 有機農業

(JAS法に位置付ける日本農林規格)  
有機JAS認証を取得している農地で栽培・格付  
※包装等に「有機●●」等表示可

## 有機農業

有機JAS認証を取得していない農地で栽培  
※包装等に「有機」等と  
表示することはできない

## 有機農業

(有機農業推進法の取組水準)

化学農薬・化学肥料及び組換えDNA技術不使用

## 特別栽培農産物の栽培水準

H19 特別栽培農産物に係る表示ガイドライン第3定義における  
「特別栽培農産物」の定義に基づくもの。

化学農薬(節減対象農薬)・化学肥料の使用回数・量が慣行レベルの5割以下

## 環境保全型農業

(土づくり等を通じて化学肥料・農薬の使用等による環境負荷を軽減)

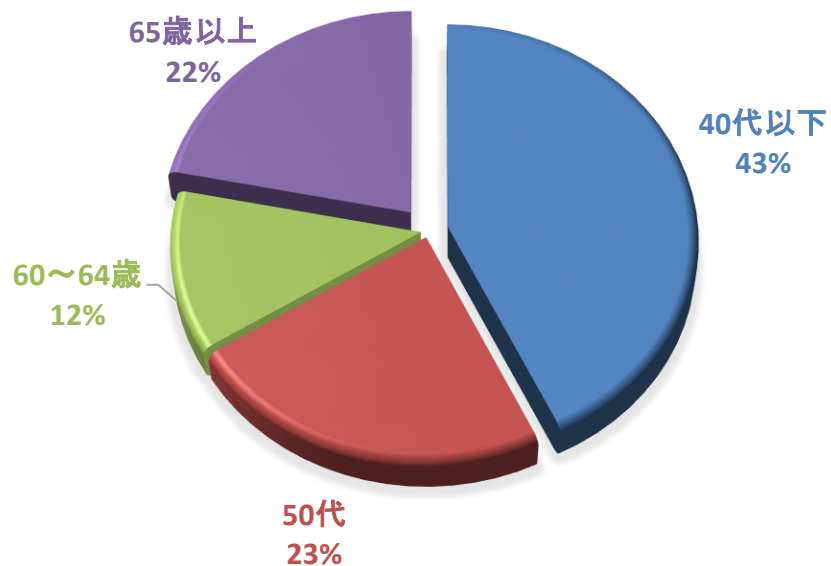
## 慣行農業

# 北海道の有機農業の現状【有機農業に取り組む生産状況】

○ 農業従事者全体では、平均年齢は58.5歳、65歳以上の割合は41%、40代以下は29%であるのに対して、有機農業者は平均年齢は53.2歳、65歳以上は22%、40代以下の割合は43%と年齢層が低いことがわかる。

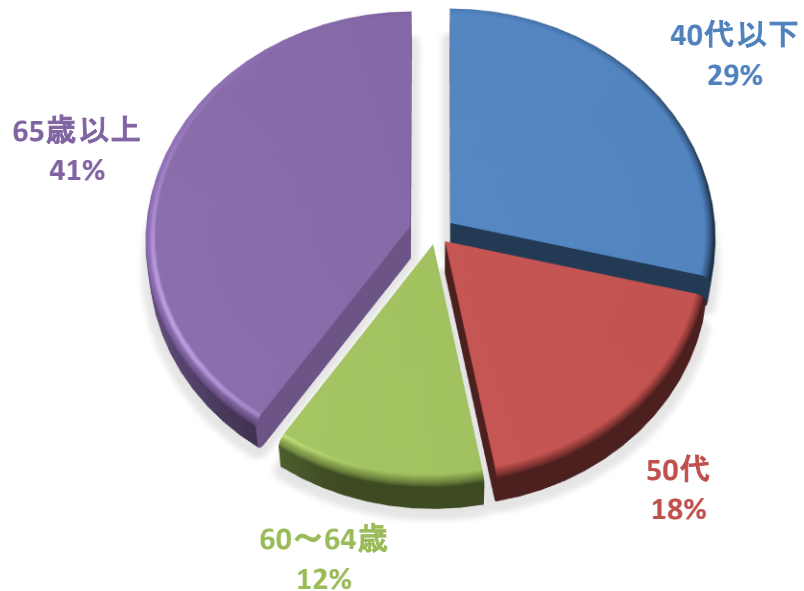
## 有機農業者の年代別構成

平均年齢 53.2歳



## 基幹的農業従事者の年代構成

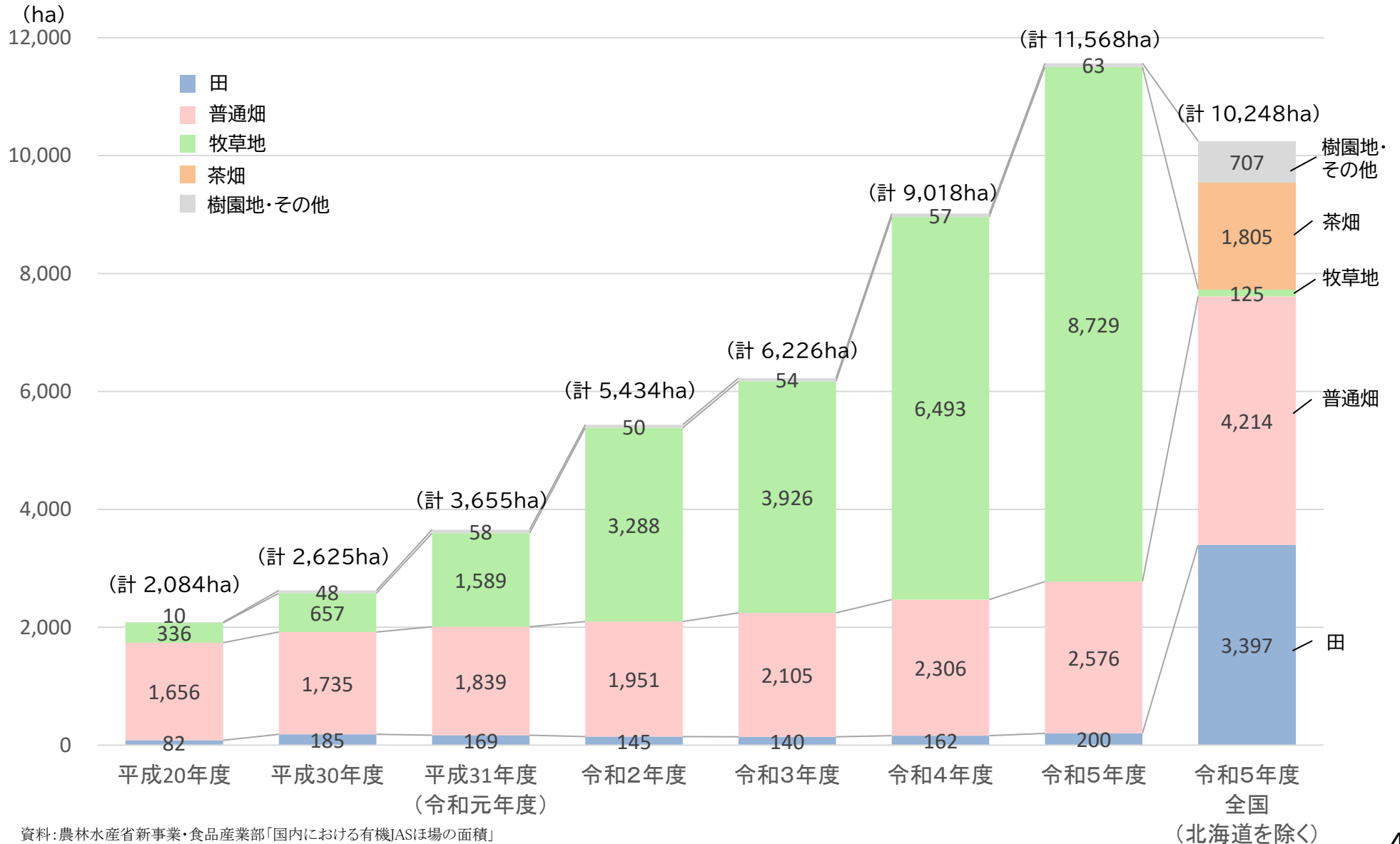
平均年齢 58.5歳



※北海道農政部調べ(市町村への調査結果) <R3年度(2022年3月末)>  
後継者割合の全道数値は、農林水産省「農林業センサス」<R2(2020)年2月1日現在>

# 北海道における有機JASほ場の面積

- ・国内の登録認証機関の協力を得て、有機JASほ場の面積を取りまとめたもの。
- ・令和3年から、有機飼料及び有機畜産物に係るほ場についても報告を求めており、牧草地等に追加している。
- ・小数点以下は四捨五入しているため、合計と内訳が一致しない場合がある。



# 全国における有機農業の取組面積が大きい市町村

※令和6年度に実施した「令和5年度における有機農業の推進状況調査（市町村対象）」において、一定程度、有機農業の取組面積を把握していると回答した960市町村のうち、公表について「可」との回答があった市町村のみを掲載。

	市町村	有機農業の取組面積 (ha)	耕地面積に占める割合	主に作付けされている品目
1	雄武町（北海道）	1103	11.0%	飼料作物、だったんそば
2	標茶町（北海道）	508	1.8%	飼料作物
3	興部町（北海道）	410	6.5%	飼料作物
4	大野市（福井県）	369	8.8%	水稻、そば
5	津別町（北海道）	364	6.4%	豆類、ばれいしょ、タマネギ、カボチャ、飼料作物
6	浜中町（北海道）	336	2.3%	飼料作物
7	豊岡市（兵庫県）	313	6.4%	水稻、大豆、そば、小麦、ニンジン
8	大湯村（秋田県）	298	2.6%	水稻、麦類、豆類、カボチャ、ニンニク、大豆
9	枝幸町（北海道）	290	2.7%	飼料作物
10	滝上町（北海道）	280	7.7%	飼料作物
11	中標津町（北海道）	278	1.1%	飼料作物
12	越前市（福井県）	276	7.7%	水稻、麦類、豆類、キュウリ、ニンジン、キャベツ、そば
13	南九州市（鹿児島県）	232	2.6%	茶、野菜、水稻、大麦若葉
14	釧路市（北海道）	223	2.1%	飼料作物
15	美瑛町（北海道）	209	1.7%	水稻、麦類、豆類、ばれいしょ、カボチャ、そば

	市町村	有機農業の取組面積 (ha)	耕地面積に占める割合	主に作付けされている品目
16	せたな町（北海道）	204	3.5%	水稻、麦類、豆類、ミニトマト、アスパラガス、ブルーベリー、そば、飼料作物
17	菊池市（熊本県）	203	3.5%	水稻、麦類
18	丹波市（兵庫県）	197	3.6%	水稻、豆類、ニンジン、黒枝豆、ブルーベリー、茶、麦類、黒ごま
19	剣淵町（北海道）	177	2.7%	豆類、ばれいしょ（食用、加工）、カボチャ、タマネギ、そば、雑穀
20	志布志市（鹿児島県）	173	2.8%	水稻、ピーマン、茶
21	山都町（熊本県）	164	3.4%	水稻、豆類、ニンジン、ばれいしょ、ペピーリーフ、ユズ、ブルーベリー、栗、茶、そば、飼料作物
22	登米市（宮城県）	149	0.8%	水稻、麦類、豆類、ばれいしょ、なばな、ホウレンソウ
23	天塩町（北海道）	144	1.4%	飼料作物
24	中泊町（青森県）	143	3.9%	水稻、豆類、ダイコン、ニンニク、トマト、ブドウ
25	福井市（福井県）	126	1.6%	水稻、そば
26	一関市（岩手県）	123	0.7%	水稻、麦類、豆類、ニンジン、ホウレンソウ、ばれいしょ
27	大蔵村（山形県）	122	10.0%	そば
28	大田原市（栃木県）	109	1.0%	水稻、麦類、豆類、レンコン、ばれいしょ、葉野菜、梅、ブルーベリー、そば、菜種
29	あわら市（福井県）	108	3.2%	水稻、そば
30	新庄市（山形県）	107	2.0%	水稻、豆類、かんしょ、ニンジン、トウモロコシ、リンゴ、そば、飼料作物

# 全国における有機農業の取組面積が耕地面積に占める割合が高い市町村

※令和6年度に実施した「令和5年度における有機農業の推進状況調査（市町村対象）」において、一定程度、有機農業の取組面積を把握していると回答した960市町村のうち、公表について「可」との回答があった市町村のみを掲載。

	市町村	有機農業の取組面積 (ha)	耕地面積に占める割合	主に作付けされている品目
1	馬路村（高知県）	52	83.9%	ユズ
2	西川町（山形県）	84	17.6%	そば
3	多賀町（滋賀県）	76	15.9%	そば
4	北中城村（沖縄県）	6	12.6%	ハンダマ、バナナ
5	雄武町（北海道）	1103	11.0%	飼料作物、だったんそば
6	様似町（北海道）	105	10.2%	飼料作物
7	尾鷲市（三重県）	7	10.2%	甘夏
8	大蔵村（山形県）	122	10.0%	そば
9	小川町（埼玉県）	58	9.4%	水稻、麦類、豆類、キャベツ、ニンジン、ダイコン、キュウリ、ナス
10	綾町（宮崎県）	63	9.3%	水稻、麦類、豆類、かんしょ、ニンジン、ダイコン、ブルーベリー、ブドウ、日向夏、飼料作物
11	大野市（福井県）	369	8.8%	水稻、そば
12	江津市（島根県）	53	8.8%	桑、ホウレンソウ、ゴボウ、豆類、水稻、麦類、葉菜類
13	川根本町（静岡県）	44	8.7%	茶
14	湯前町（熊本県）	48	8.6%	水稻、麦類、タマネギ、飼料作物
15	小坂町（秋田県）	72	8.5%	豆類

	市町村	有機農業の取組面積 (ha)	耕地面積に占める割合	主に作付けされている品目
16	基山町（佐賀県）	23	8.3%	水稻、イモ類、レンコン、ショウガ
17	越前市（福井県）	276	7.7%	水稻、麦類、豆類、キュウリ、ニンジン、キャベツ、そば
18	滝上町（北海道）	280	7.7%	飼料作物
19	戸沢村（山形県）	104	7.1%	水稻、パプリカ
20	鬼北町（愛媛県）	69	6.8%	ユズ、ばれいしょ、かんしょ、ニンジン
21	興部町（北海道）	410	6.5%	飼料作物
22	豊岡市（兵庫県）	313	6.4%	水稻、大豆、そば、小麦、ニンジン
23	津別町（北海道）	364	6.4%	豆類、ばれいしょ、タマネギ、カボチャ、飼料作物
24	西原町（沖縄県）	7	5.9%	オクラ、インゲン
25	吉賀町（島根県）	50	5.7%	水稻、非結球レタス、トウモロコシ、ピーマン、麦類、豆類
26	赤村（福岡県）	21	5.5%	水稻、セロリ、トマト、ミニトマト
27	南越前町（福井県）	53	5.1%	水稻、そば
28	湧水町（鹿児島県）	86	5.1%	水稻、ニンジン、かんしょ、ばれいしょ、ホウレンソウ、ダイコン、茶
29	南知多町（愛知県）	37	5.0%	豆類、ダイコン、タマネギ、ハーブ
30	赤井川村（北海道）	39	4.9%	アスパラガス、ばれいしょ

## 北海道における有機農業の取組状況

- ・令和6年の北海道の耕地面積は約113万8,000haであり、このうち、有機JAS認証ほ場面積は11,568ha（約1.0%）となっている。
- ・北海道では、有機JAS認証ほ場面積のうち牧草地の割合が多く全体の約8割を占める。

有機JAS認定農家数 (令和6年3月末現在)	全 国	3,945戸
	北海道	354戸 (全国1位 8.9%)
有機JAS認証ほ場面積 (令和6年3月末現在)	全 国	21,815ha
	北海道	11,568ha (全国1位 53.0%)
環境保全型農業直接支払制度 (令和7年8月現在)	全 国	894市町村 90,615ha (うち有機農業14,631ha)
	北海道	88市町村 22,577ha (うち有機農業 2,433ha)

耕地別有機JAS認証ほ場面積

単位：a

	合計	田	畑					その他
				普通畑	樹園地	牧草地	茶畑	
北海道	1,156,828	20,046	1,136,236	257,569	5,774	872,893	0	546
全国	2,181,512	359,751	1,809,158	678,921	64,405	885,374	180,459	12,604

# 北海道における地域別の有機農業の現状【面積・経営体】

- 全道の有機農業取組経営体数は上川、石狩、十勝、空知、オホーツクの順で多い  
取組面積では、オホーツク、十勝、釧路、上川、根室と、牧草地の取組の多い振興局が上位となっている。
- 全道に占める有機農業は、農家の割合で1.6%、面積比では0.76%にとどまる。

## ■ 振興局別有機農業取組面積 (R4年度 (2023年3月末))

(単位: ha)

	全道	空知	石狩	後志	胆振	日高	渡島	檜山	上川	留萌	宗谷	林-ツク	十勝	釧路	根室
有機栽培面積①	8,637	276	286	200	104	220	609	221	903	156	428	2,258	1,168	1,046	762
うち有機JAS	7,427	206	216	110	55	191	560	213	545	156	428	1,869	1,082	1,033	762
うち非有機JAS有機	1,210	70	70	89	48	30	49	8	358	0	0	389	86	13	0
(有機を含む経営面積計)	12,534	713	536	388	179	220	630	221	1,633	311	447	2,969	2,171	1,123	993
<参考>															
耕地面積②	1,141,800	113,500	40,800	34,600	34,100	38,800	24,000	18,900	130,100	25,800	62,300	165,700	254,600	88,500	110,100
有機割合 (①/②*100)	0.76%	0.24%	0.70%	0.58%	0.30%	0.57%	2.54%	1.17%	0.69%	0.61%	0.69%	1.36%	0.46%	1.18%	0.69%

## ■ 振興局別有機農業取組経営体数 (R4年度 (2023年3月末))

(単位: 戸)

	全道	空知	石狩	後志	胆振	日高	渡島	檜山	上川	留萌	宗谷	林-ツク	十勝	釧路	根室
有機栽培経営体数①	484	63	70	46	24	5	19	16	80	8	8	56	64	11	14
うち有機JAS	357	38	39	34	16	5	16	11	62	8	8	48	49	9	14
うち非有機JAS有機	127	25	31	12	8	0	3	5	18	0	0	8	15	2	0
①の農業者平均年齢	55	55	52	46	52	53	61	58	54	53	53	56	50	48	51
〃 後継者あり	101	13	12	6	2	2	7	5	18	0	0	20	10	1	5
〃 後継者確保率	20.9%	20.6%	17.1%	13.0%	8.3%	40.0%	36.8%	31.3%	22.5%	0.0%	0.0%	35.7%	15.6%	9.1%	35.7%
<参考>															
農家戸数②	29,700	5,306	1,910	2,016	1,452	1,116	1,410	940	5,291	664	603	3,361	4,511	923	1,063
有機農家の割合	1.6%	1.2%	3.7%	2.3%	1.7%	0.4%	1.3%	1.7%	1.5%	1.2%	1.3%	1.7%	1.4%	1.2%	1.3%
(後継者確保率)	21.1%	19.6%	19.6%	16.2%	18.3%	19.7%	20.4%	12.7%	17.6%	21.8%	21.6%	25.2%	25.7%	28.8%	27.1%

※「有機栽培面積」「有機栽培経営体数」は北海道農政部調べ(「うち有機JAS」の数値は、報告主体及び調査基準日の違い等により、6ページの農林水産省調べの数値とは異なる)

<参考>の耕地面積:農林水産省「耕地及び作付面積統計」、農家戸数:農林水産省「農林業センサス」

## 北海道における地域別の有機農業の現状【1戸あたり面積・専業率】

- 有機農業取組面積は1戸あたり12.1 ha、慣行農業等も含む経営面積は1戸あたり20.2 ha。
- 振興局別の1戸あたりの有機農業の取組面積は、牧草の割合が高い釧路、根室、宗谷、オホーツクの順で大きい。
- 有機農業取組経営体のうち、慣行栽培を併用していない「有機専業率」は全道で55.2%であり、上川、石狩、十勝、空知の順で大きい。

### ■ 振興局別 1戸あたり有機農業取組面積 (R4年度 (2023年3月末))

(単位: ha)

	全道	空知	石狩	後志	胆振	日高	渡島	檜山	上川	留萌	宗谷	林-ツク	十勝	釧路	根室
1戸当たり有機栽培面積①	12.1	4.3	4.1	4.3	4.3	44.0	32.0	13.8	11.2	19.5	53.5	40.3	18.2	95.0	54.4
うち有機JAS	15.1	5.4	5.5	3.2	3.4	38.2	35.0	19.3	8.7	19.5	53.5	38.9	22.0	114.7	54.4
うち非有機JAS有機	6.9	2.8	2.3	7.4	6.0	-	16.3	1.6	19.8	-	-	48.6	5.7	6.5	-
(有機を含む経営面積計)	20.2	11.3	7.6	8.4	7.4	44.0	33.1	13.8	20.4	38.3	55.8	53.0	33.9	102.0	70.9

### ■ 有機農業取組経営体の有機専業率 (R4年度 (2023年3月末))

(単位: 戸)

	全道	空知	石狩	後志	胆振	日高	渡島	檜山	上川	留萌	宗谷	林-ツク	十勝	釧路	根室
有機栽培経営体数	484	63	70	46	24	5	19	16	80	8	8	56	64	11	14
うち有機専業	267	48	51	33	20	5	15	16	45	4	7	27	37	10	13
有機専業率	55.2%	76.2%	72.9%	71.7%	83.3%	100.0%	78.9%	100.0%	56.3%	50.0%	87.5%	48.2%	57.8%	90.9%	92.9%

※北海道農政部調べ (市町村への調査結果)

# 北海道における地域別の有機農業の現状【品目別】

- 品目別有機農業取組面積は、牧草（6,255ha）、そば（832ha）、大豆（526ha）、小麦（365ha）、かぼちゃ（271ha）、水稻（201ha）、ばれいしょ（179ha）、飼料用とうもろこし（121ha）の順に大きい。
- 麦・豆類は、960haで、このうち大豆（526ha）が半分以上を占める。
- 野菜類は、892haで、このうちかぼちゃ（271ha）、ばれいしょ（179ha）、たまねぎ（118ha）で6割を占める。

## ■ 振興局別品目別有機農業取組面積(R5年度（2024年3月末）

(単位：ha)

	全道	空知	石狩	後志	胆振	日高	渡島	檜山	上川	留萌	宗谷	オホーツク	十勝	釧路	根室
<b>水稻</b>	<b>200.5</b>	<b>66.2</b>	<b>18.2</b>	<b>8.5</b>	<b>2.0</b>	<b>0.0</b>	<b>27.0</b>	<b>17.4</b>	<b>61.2</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>
<b>麦・豆類</b>	<b>959.8</b>	<b>126.9</b>	<b>48.5</b>	<b>37.7</b>	<b>71.8</b>	<b>0.0</b>	<b>0.2</b>	<b>15.2</b>	<b>311.8</b>	<b>0.1</b>	<b>0.0</b>	<b>85.7</b>	<b>250.0</b>	<b>11.8</b>	<b>0.0</b>
秋まき小麦	296.6	14.6	15.2	14.5	20.1	0.0	0.0	0.0	107.5	0.0	0.0	46.7	78.0	0.0	0.0
春まき小麦	68.4	1.3	4.9	0.0	9.8	0.0	0.0	1.3	33.2	0.0	0.0	7.7	10.3	0.0	0.0
その他(麦類)	19.6	0.8	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	9.0	0.0	0.0	1.6	5.9	0.0	0.0
大豆	526.3	108.7	26.2	22.9	36.1	0.0	0.2	13.3	149.0	0.1	0.0	25.9	133.3	10.7	0.0
小豆	39.2	1.5	0.4	0.3	1.7	0.0	0.0	0.6	12.1	0.0	0.0	3.1	18.3	1.1	0.0
その他(豆類)	9.8	0.0	1.8	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.7	4.2	0.0	0.0
<b>野菜</b>	<b>891.5</b>	<b>89.6</b>	<b>108.2</b>	<b>84.0</b>	<b>15.8</b>	<b>0.0</b>	<b>79.8</b>	<b>8.7</b>	<b>208.7</b>	<b>9.5</b>	<b>0.0</b>	<b>149.7</b>	<b>136.1</b>	<b>1.7</b>	<b>0.0</b>
馬鈴しょ	179.2	6.5	11.4	5.3	1.3	0.0	0.1	0.7	65.1	0.0	0.0	37.7	49.6	1.6	0.0
だいこん	16.5	3.4	7.1	2.4	0.2	0.0	0.8	0.0	0.3	0.0	0.0	0.3	2.0	0.1	0.0
にんじん	50.4	5.4	6.0	2.4	0.7	0.0	0.0	0.0	17.0	0.0	0.0	13.3	5.6	0.0	0.0
ながいも	2.5	1.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0
キャベツ	4.8	0.0	0.0	2.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	2.2	0.0	0.0
ほうれんそう	3.3	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	1.1	0.0	0.3	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
アスパラガス	33.1	2.4	2.6	22.3	0.2	0.0	0.2	2.0	2.9	0.0	0.0	0.1	0.4	0.0	0.0
ブロッコリー	7.3	0.0	4.3	2.2	0.1	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.2	0.3	0.0	0.0
たまねぎ	117.9	32.4	6.4	4.6	1.0	0.0	0.0	0.6	28.1	0.0	0.0	42.5	2.1	0.0	0.0
かぼちゃ	270.6	15.2	29.2	7.2	6.1	0.0	67.9	0.5	68.2	8.0	0.0	29.9	38.4	0.0	0.0
トマト	25.6	3.1	6.2	4.2	0.9	0.0	2.2	0.4	6.5	0.0	0.0	1.9	0.3	0.0	0.0
スイートコーン	28.8	5.6	5.0	6.5	0.1	0.0	0.0	0.4	5.4	0.0	0.0	1.0	4.8	0.0	0.0
えだまめ	5.2	0.0	2.6	2.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メロン	4.2	1.2	0.2	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0
その他(野菜)	141.9	13.0	27.4	21.0	4.3	0.0	7.5	4.0	13.4	0.0	0.0	22.2	29.3	0.0	0.0
<b>果樹</b>	<b>94.2</b>	<b>13.6</b>	<b>8.9</b>	<b>47.6</b>	<b>4.3</b>	<b>0.0</b>	<b>0.1</b>	<b>0.3</b>	<b>11.3</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.4</b>	<b>7.7</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>
りんご	1.2	0.1	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0
ぶどう	52.7	8.2	0.0	28.5	1.2	0.0	0.0	0.0	11.3	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0
おうとう	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他(果樹)	40.1	5.3	8.9	18.5	3.1	0.0	0.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.4	3.5	0.0	0.0
<b>茶</b>	<b>1.5</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>1.5</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>
<b>その他</b>	<b>7,239.5</b>	<b>25.8</b>	<b>100.4</b>	<b>31.0</b>	<b>35.7</b>	<b>200.6</b>	<b>498.0</b>	<b>180.5</b>	<b>386.3</b>	<b>146.3</b>	<b>319.3</b>	<b>2,204.4</b>	<b>844.6</b>	<b>1,120.2</b>	<b>1,146.8</b>
そば	831.5	20.1	23.4	25.4	1.4	0.0	0.0	5.8	272.8	0.0	0.0	376.8	105.9	0.0	0.0
牧草	6,254.9	0.0	75.0	0.0	30.1	200.6	498.0	174.7	102.0	144.3	319.3	1,714.8	730.2	1,119.5	1,146.6
自給	6,134.9	0.0	75.0	0.0	30.1	200.6	498.0	174.7	102.0	144.3	319.3	1,714.8	730.2	1,119.5	1,026.6
販売	120.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	120.0
飼料用とうもろこし	120.5	5.0	1.5	5.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	108.5	0.0	0.0	0.0
その他(飼料作物)	1.1	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0
その他	31.6	0.7	0.1	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0	11.7	1.9	0.0	4.4	8.5	0.0	0.2
<b>合計</b>	<b>9,386.9</b>	<b>322.0</b>	<b>284.2</b>	<b>239.0</b>	<b>129.6</b>	<b>200.6</b>	<b>605.0</b>	<b>222.1</b>	<b>979.3</b>	<b>155.8</b>	<b>319.3</b>	<b>2,440.1</b>	<b>1,238.4</b>	<b>1,133.7</b>	<b>1,146.8</b>

※北海道農政部調べ(市町村への調査結果)

# オーガニックビレッジの取組

---



# なぜオーガニックビレッジの取組を始めたのか

- ▶ 2006年に有機農業推進法が制定され、2021年にはみどりの食料システム戦略が策定。2022年にはオーガニックビレッジの支援を開始。
- ▶ 2030年に向けて、より多くの農業者が、持続可能な農業・有機農業に取り組みやすくするため、個々の農業者の**点の取組**から、幅広い関係者と協力した**面的な取組への展開**を進めていくことが重要。

有機農業面積 2009年：1.63万ha → 2022年：2.66万ha → 2024年：3.45万ha

## 2006年 有機農業推進法制定

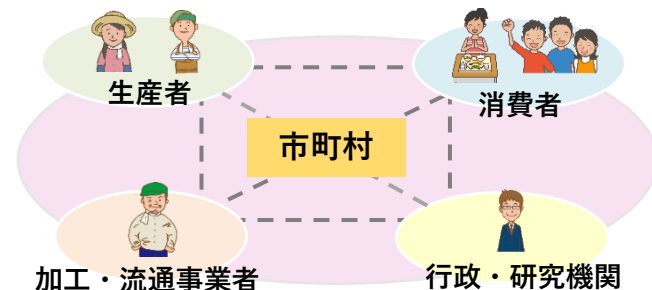
全国各地に有機農業者、  
有機農業者グループが点在。



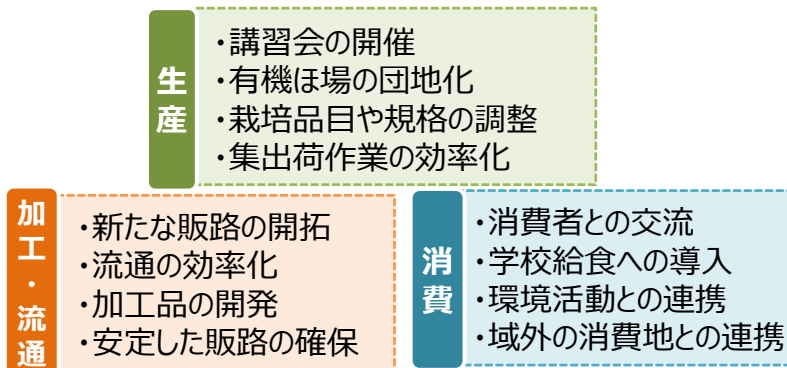
2021年  
みどりの食料システム戦略策定

## 2022年～ オーガニックビレッジの取組を開始

- ・市町村のリーダーシップのもと有機農業の産地づくり
- ・地域内で生産から消費まで取組む体制を構築



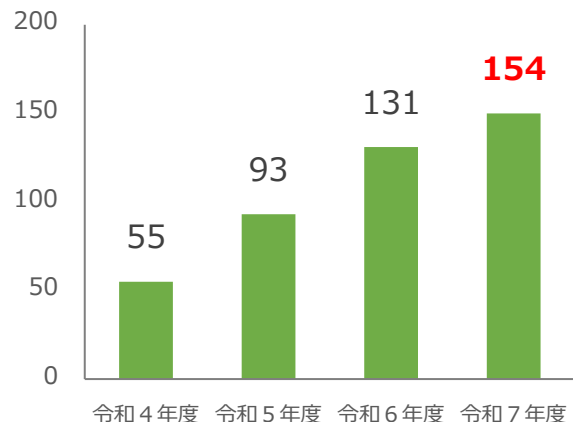
### ▼オーガニックビレッジの取組内容のイメージ



# オーガニックビレッジの現状

- 令和7年度までに46都道府県154市区町村がオーガニックビレッジの取組を開始。
- 154市区町村のうち、9割の139市町村において学校給食に関する取組を実施するなど、各地で有機食品の活用の取組が拡大。

## オーガニックビレッジ市区町村数



## ▼オーガニックビレッジの取組事例▼

### 【技術実証】

データに基づく有機栽培技術の実践や除草作業を中心とした省力化機械（水田除草機）の導入等により、地域全体で有機農業に取り組みやすい体制を整備し、大幅な面積拡大を目指す。（越前市）



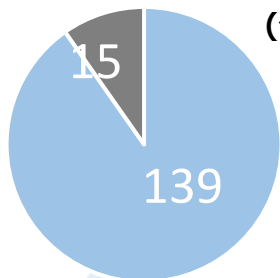
### 【加工・販売】

有機米を使った米菓製造販売や、有機酒米を使って新たな日本酒づくりを行うなど、市内の事業者が連携して付加価値の高い商品を作り、ブランド化を目指す。（南砺市）



## オーガニックビレッジ市町村における学校給食での有機食品の利用状況

（令和7年度）



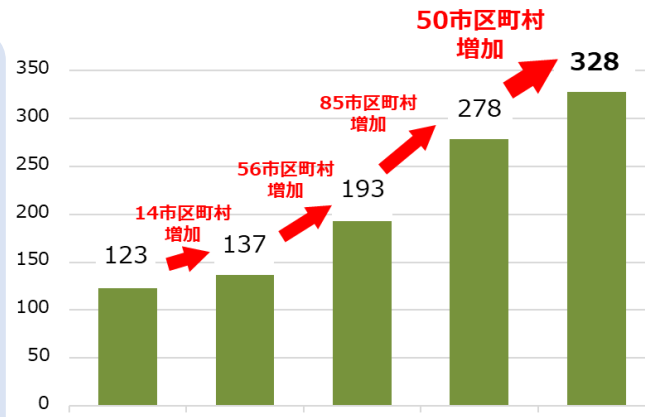
9割のオーガニックビレッジが給食の取組を実施

## ▼自治体の連携事例

### 【全国オーガニック給食フォーラム】 （令和5年度～）

令和5年6月に、オーガニック給食の実現を目指す自治体、農業関係団体、流通事業者、市民団体等の多様な主体で構成された**全国オーガニック給食協議会**が設立された。

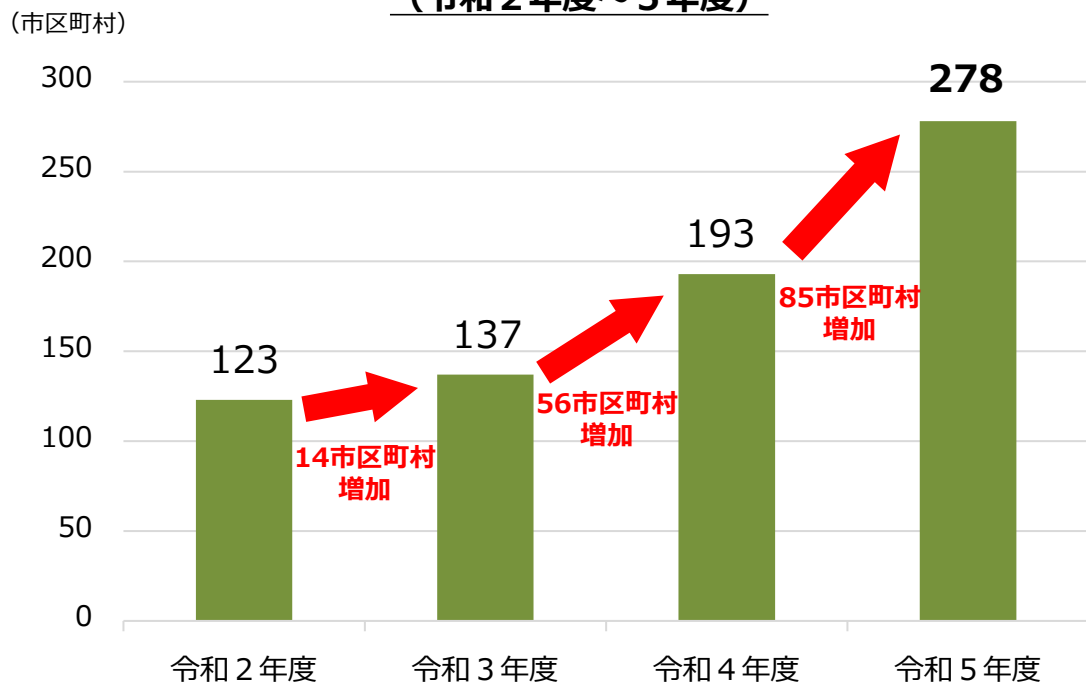
【参考】学校給食で有機食品を利用している市区町村数（全国）



# 学校給食における有機農産物等の活用に取り組む市町村の状況

- 令和5年度末時点で278市区町村が学校給食で有機食品を利用しており、令和4年度末から85市区町村増加。
- 品目別の取組自治体数では、野菜の利用が最も多く（189市区町村）、次いで米飯の利用が多い（127市区町村）。

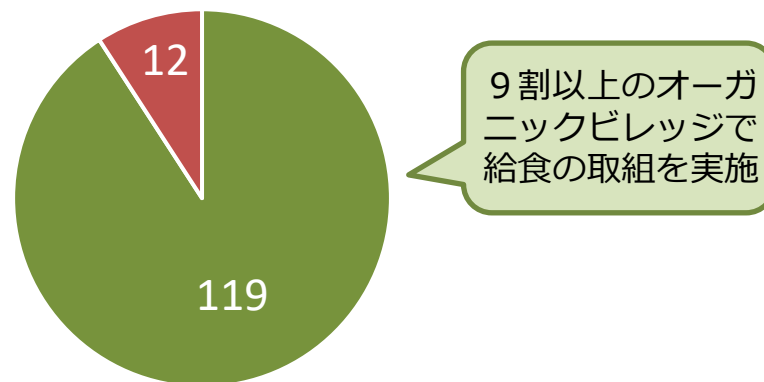
学校給食で有機食品を利用している市区町村数  
(令和2年度～5年度)



出典：農業環境対策課「令和2年度、令和3年度、令和4年度、令和5年度における有機農業の推進状況調査（市区町村対象）」

オーガニックビレッジ取組市町村における学校給食に関する取組状況（令和6年度）

※計画ベースの取組を含む



9割以上のオーガニックビレッジで給食の取組を実施

- 学校給食で有機食品を利用している又は学校給食に関する取組に関する計画がある
- 学校給食で有機食品を利用しておらず、学校給食に関する取組に関する計画がない

【取組市町村における主な品目】

- ・ コメ（38市町村）
- ・ 野菜（53市町村）
- ・ 果物（4市町村）
- ・ 豆類（4市町村）
- ・ お茶（1市町村）

119市町村のうち既に学校給食で有機食品を利用している71市町村への聞き取り結果※2を集計

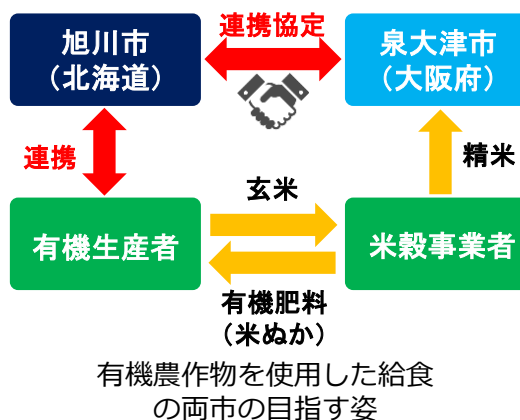
※ 農業環境対策課「令和4年度における有機農業の推進状況調査（市町村対象）」

# 学校給食における有機農産物の導入の取組事例

## 大阪府泉大津市 × 北海道旭川市

- 令和4年度から泉大津市は「ときめき給食」として他地域からの有機食材を給食に提供する取組を実施。
- 令和5年8月、泉大津市と旭川市の間で有機農産物の供給等に係る連携協定を締結※。令和5年度に旭川市産有機JAS米「ゆめぴりか」を約20t購入し、令和6年7月から学校給食にて提供。

※ 令和5年3月、泉大津市は「安全・安心な食糧の安定的確保に関する構想」を策定し、生産地と消費地の“共存共生”の考えに立ち、互いの課題解決に向けた独自の食のサプライチェーン構築を進めている。



有機農産物を使用した給食の様子

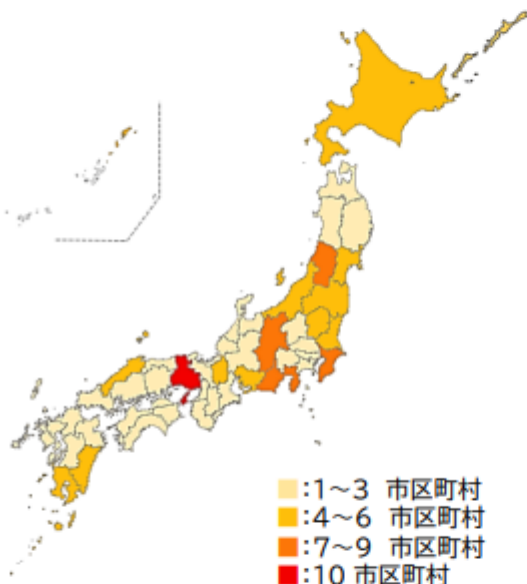
# オーガニックビレッジ実施地区

【R7. 12. 26時点】

○有機農業の面積拡大に向けて、地域ぐるみで有機農業の生産から消費まで一貫して取り組む『オーガニックビレッジ』を2025年までに100市町村、2030年までに200市町村創出することを目標に、全国各地での産地づくりを推進。

○令和3年度補正予算からみどりの食料システム戦略推進総合対策により支援を開始し、現時点で46都道府県154市区町村で取組開始。

## 【実施市町村】



都道府県	市町村
北海道	(5) 安平町、旭川市、新十津川町、赤井川村、浦幌町
青森県	(2) 黒石市、五戸町
岩手県	(3) 花巻市、一関市、遠野市
宮城県	(6) 登米市、栗原市、大崎市、加美町、石巻市、大郷町
秋田県	(1) 大潟村
山形県	(7) 米沢市、鶴岡市、新庄市、川西町、山形市、酒田市、高島町
福島県	(4) 二本松市、喜多方市、会津若松市、鮫川村
茨城県	(4) 常陸大宮市、石岡市、笠間市、かすみがうら市
栃木県	(5) 小山市、市貝町、塩谷町、栃木市、大田原市
群馬県	(3) 甘楽町、高山村、みなかみ町
埼玉県	(3) 小川町、所沢市、さいたま市
千葉県	(7) 木更津市、佐倉市、神崎町、成田市、いすみ市、多古町、匝瑳市
東京都	(1) 台東区
神奈川県	(2) 相模原市、小田原市
山梨県	(1) 北杜市
長野県	(7) 辰野町、松川町、飯田市、飯綱町、伊那市、佐久市、長和町
静岡県	(8) 掛川市、藤枝市、川根本町、静岡市、富士宮市、島田市、伊豆の国市、小山市
新潟県	(5) 佐渡市、新発田市、五泉市、阿賀野市、津南町
富山県	(2) 南砺市、富山市
石川県	(3) 珠洲市、羽咋市、白山市
福井県	(1) 越前市
岐阜県	(3) 白川町、飛騨市、山県市
愛知県	(6) 東郷町、南知多町、岡崎市、大府市、美浜町・武豊町

都道府県	市町村
三重県	(3) 尾鷲市、名張市、伊賀市
滋賀県	(4) 甲賀市、近江八幡市、日野町、東近江市
京都府	(2) 亀岡市、京丹後市
大阪府	(2) 堺市、泉大津市
兵庫県	(10) 豊岡市、丹波篠山市、養父市、丹波市、淡路市、神戸市、朝来市、加東市、上郡町、稲美町
奈良県	(3) 宇陀市、天理市、山添村
和歌山県	(1) かつらぎ町
鳥取県	(2) 日南町、八頭町
島根県	(5) 浜田市、大田市、邑南町、吉賀町、江津市
岡山県	(2) 和気町、新庄村
広島県	(1) 神石高原町
山口県	(1) 長門市
徳島県	(2) 小松島市、海陽町
香川県	(1) 三豊市
愛媛県	(1) 今治市
高知県	(1) 馬路村
福岡県	(2) うきは市、篠栗町
佐賀県	(2) 上峰町・みやき町
長崎県	(3) 南島原市、雲仙市、五島市
熊本県	(3) 南阿蘇村、山都町、菊池市
大分県	(3) 佐伯市、臼杵市、豊後高田市
宮崎県	(6) 綾町、高鍋町・木城町、えびの市、宮崎市、高千穂町
鹿児島県	(5) 南さつま市、湧水町、南種子町、徳之島町、始良市

令和6年度131市町村



新たに23市区町村  
で取組を開始

令和7年度154市区町村

※下線は令和7年度開始地区

# 北海道のオーガニックビレッジ実施地区

- 我が国では、2030年までに全国の1割以上の市町村(200)での「オーガニックビレッジ」の創出を目指して、「みどり推進交付金」により、生産から消費まで一貫して有機農業を推進する取組の試行や産地づくり、産地と消費地が連携した取組等を支援。
- 北海道では、「有機農業拠点創出・拡大加速化事業（旧：有機農業産地づくり）」を活用して、これまで5市町村で取り組んでおり、うち「安平町」、「旭川市」では「オーガニックビレッジ宣言」がなされている。なお、全国では、150を超える市町村で取り組んでいる。

## 「オーガニックビレッジ」に取り組まれている道内市町村

### 町内生産有機米加工品を使用したPR！

町内生産有機米を使用したパックご飯を製造。町内イベント等で配布し、有機農産物のPRを実施。有機農業への取組者増加や販路開拓に取り組む。

### 新十津川町

### 旭川市・泉大津市

〔令和6年7月宣言〕

### 全国初！「生産地×消費地」の連携による取組拡大！

旭川産有機米を大阪府泉大津市の学校給食に提供するほか、両市において市民向けのイベント等を行い、旭川産有機農産物の消費及び認知度向上を図る。また、泉大津市の親子が「こども特派員」として旭川市を訪問し、有機農業体験や農業者へ取材するなど、「農」を通じた地域交流に取り組む。



### 作付拡大に向けた共同出荷体制の整備！

作付品種や品質を統一するための有機栽培マニュアルを作成するとともに、育苗から出荷までを通した共同出荷体制を整備し、生産規模の拡大に取り組む。

### 赤井川村

### 安平町

〔令和5年4月宣言〕

### 消費者向けの啓発活動を軸とした取組！

有機野菜を学校給食へ提供するほか、夏と秋にオーガニックイベントを実施。消費者に向けた有機農業、有機野菜などの啓発に取り組む。



### 浦幌町

### 生産面積拡大に向けた機械共同利用！

有機栽培用の農作業機械を導入し、共同利用を実施。個人のコスト負担軽減を図り、生産面積拡大に取り組む。

有機JASほ場面積の推移



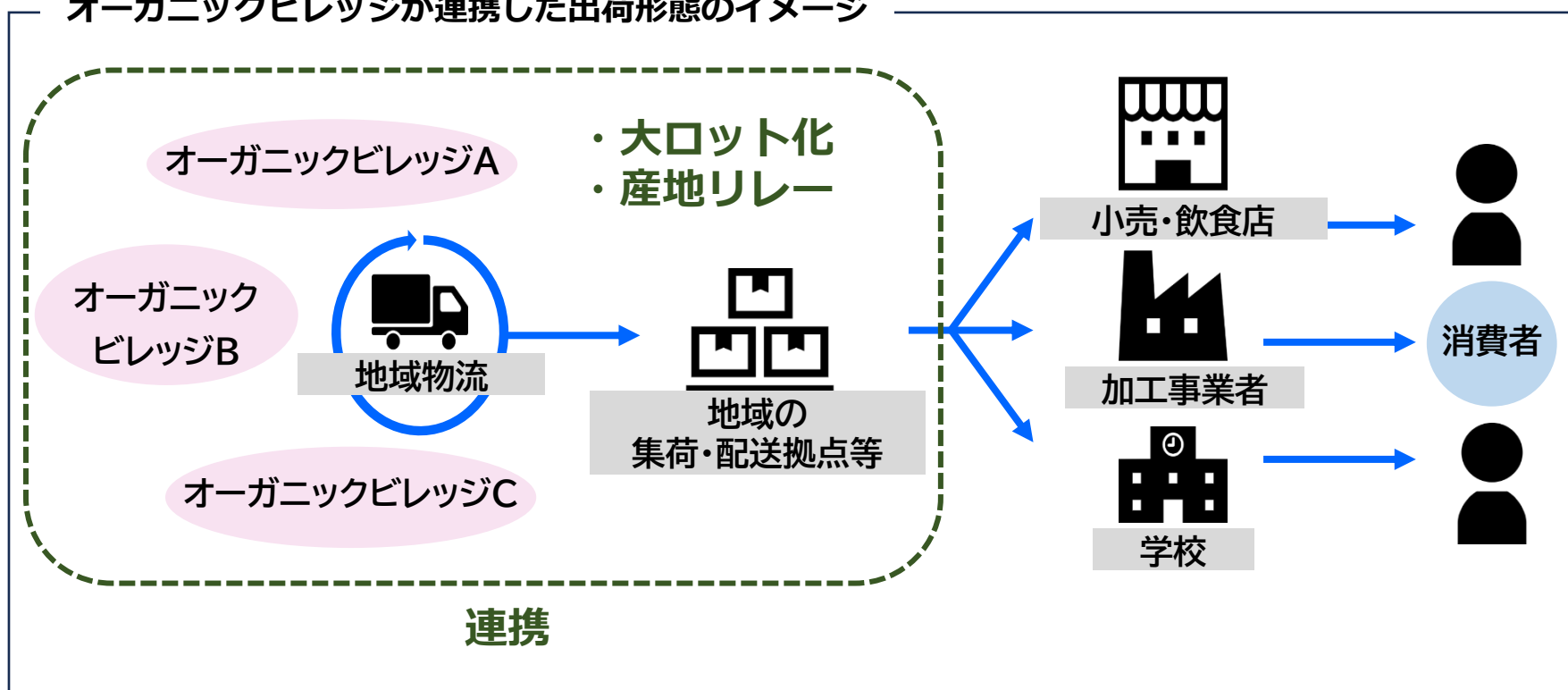
農林水産省HP「オーガニックビレッジ」のサイト  
[https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/yuuki/organic\\_village.html](https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/yuuki/organic_village.html)

※ なお、各市町村の取組内容については、令和7年度時点のものです。

# オーガニックビレッジ間の連携による広域的な流通体制の構築

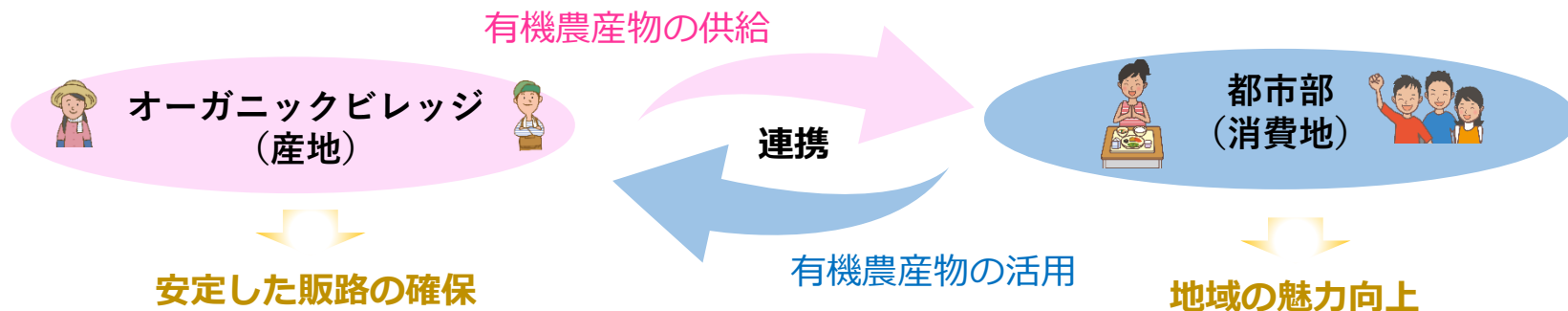
- ▶ 有機農産物の取組を更に拡大していくためには、大手小売り店や全国チェーンの飲食店等大口の販路への販売を進めていく必要がある。
- ▶ 大口の販路へ販売していくためには、オーガニックビレッジ同士が連携して大口ロット化や産地リレーに取り組むことが重要。

## オーガニックビレッジが連携した出荷形態のイメージ



# オーガニックビレッジ（産地）と都市部（消費地）との連携の拡大

- オーガニックビレッジの取組を更に拡大していくためには、地域内だけでなく、地域外にも安定した販路を確保する必要がある。
- 特に、学校給食等で有機農産物を活用したい都市部の消費地との連携は、双方にメリットのある取組であり、取組事例が増加傾向にある。



## 【取組事例】北海道旭川市×大阪府泉大津市

- 令和5年8月、旭川市と泉大津市の間で有機農産物の供給等に係る連携協定を締結
- 令和5年度に旭川市産有機JAS米「ゆめぴりか」を約20t購入し、令和6年7月から学校給食にて提供



## 【新たな取組事例】

- 宮城県大崎市×台東区（両方オガビレ）
- 福井県越前市×東京都荒川区・長野県軽井沢町
- 新潟県津南町×世田谷区

etc

増加中!!



スモールステップからはじめる  
学校給食での地場産物等  
活用のためのガイドブック



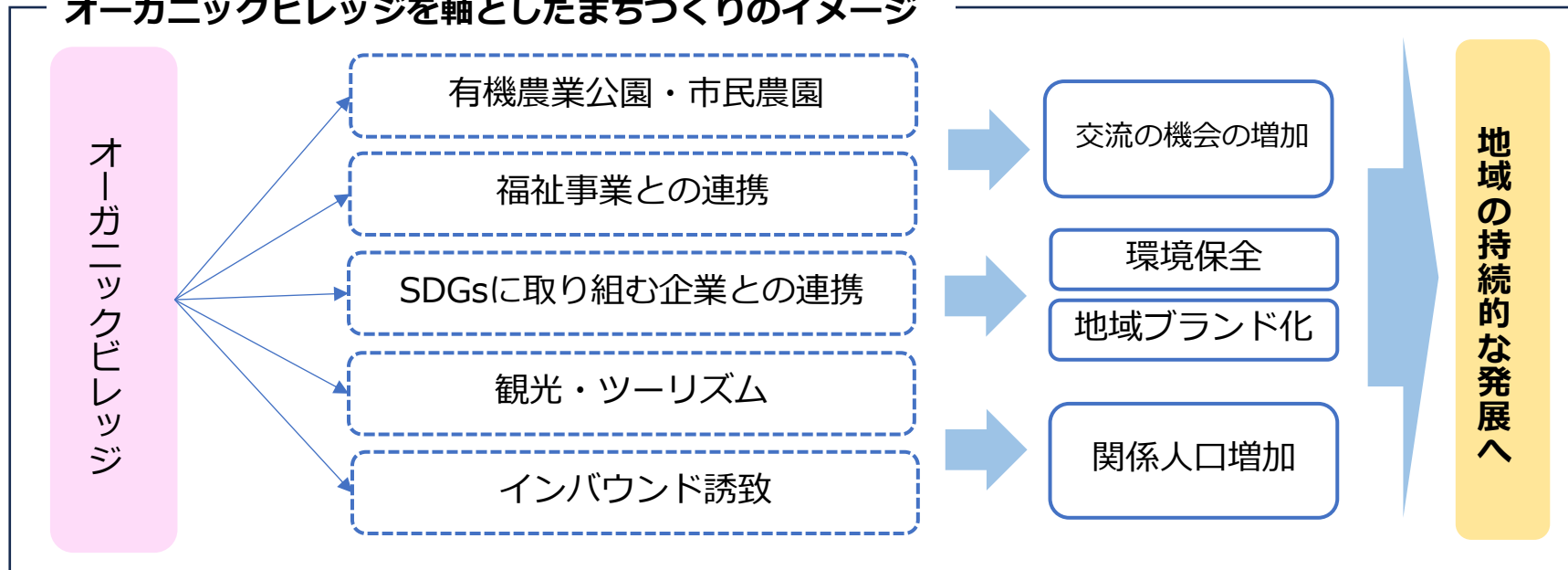
有機農業の地域づくりのヒント  
オーガニックビレッジの考え方進め方  
事例・質問集

## これからのオーガニックビレッジと発展③

# オーガニックビレッジを軸としたまちづくり

▶ オーガニックビレッジを軸として、様々な関係者や地域住民をとともに、市民農園での交流や環境保全等に取り組むことで、関係人口の増加につながり、地域の持続的な発展を可能とする。

### オーガニックビレッジを軸としたまちづくりのイメージ



### 【取組事例】

- 地域おこし協力隊制度を利用した新規就農希望者の受け入れを行う。（高山村）
- 「有機農業を核とした有機的な繋がりが広がるまちの実現」を提案し「SDGs 未来都市」に選定。（山都町）
- 有機農業の拠点として、市民農園やイベントの開催等で活用できる「オーガニックビレッジパーク」を創設予定。（亀岡市）